

こうほう ショッキング

Vol.66

Kōhō shocking



たから べ かつ や
財部克哉さん

●プロフィール

29歳。上対馬町比田勝出身、在住。上対馬高校を卒業後、中村調理製菓専門学校調理師科へ。その後、福岡の寿司店などで働き26歳で帰郷。約60年続く実家の寿司店「三楽寿司」の3代目として家族と共に切り盛りする。商工会青年部や消防団、とんちゃん部隊の一員として全力で地域活動に参加する熱血漢。両親との3人暮らし。

○地域活動に参加するようになったのは？

寿司店を経営している関係で、商工会青年部に入ったのがきっかけです。ある日、参加した研修会で「待つだけじゃ衰退するだけ。どれだけ進むかはわからないけれど、何かしたら衰退はしない」という言葉が印象に残ったんです。比田勝の町の様子を見るにつけ、現状維持だけで良いのか？と思っていました。何か良いじゃないか、という感覚が大きくなった時でした。

○比田勝地区では今、若い力が集まっているように感じますね。

というか、今までそういう受け皿があまりにもなさ過ぎたような気がします。商売をしていると、商工会に入って地域活動に参加していく方法があります。そうでない人たちは心の隅っこには「どうにかしたい」と思っている。「ではどうしたら？」ってなっちゃう。そんな人たちが活動できる一つのきっかけになったのが、とんちゃん部隊の発足だったのではないのでしょうか。僕がとんちゃん部隊に入ったのは、対馬を知らないという人を知ってもらおうきっかけ

になるため。とにかく僕らの取り柄は元気(笑)。僕らの元気そのままで対馬だ、と思ってもらってもいいくらいに気持ちで活動しています。

○活動から得たものは？

参加グループは「愛Bリーグ」という団体に加盟するんですが、僕らはその中で唯一の離島のグループ。普通だと、グランプリを獲得したグループの地元は、B-1の翌週は訪問客で大混雑なんです。でもそれが、対馬では起こらなかった。離島と内地の差なんですよ。他のグループがしているようにはいかないけれど、ヒントにはなりました。愛Bリーグの支部会議に参加していると、他のグループとの仲間意識も高まります。僕らは気づいていないけれど周囲からは見える部分を指摘してくれることもあり、勉強になります。

もちろん、地元の皆さんと盛り上げていく活動ですから、運動会に出場したり地域行事に参加したりしていくのも僕らの使命と思っています。

○今後の予定と意気込みのほどをお聞かせください。

10月26日(日)に開催が決定した「国境花火大会」で、愛B

リーグの仲間を集めてのB-1コーナーを企画しています。今年最後の大掛かりなイベントです。この夏は天候が悪くてどのお祭りも花火が上がっていませんから、気合が入ります。心配しても、もうなるようになり、ますから(笑)やるしかない、行動あるのみです。僕は、今しかないと思つたらとことんするタイプ。達成感ももちろんですが、一生懸命やった分みんなに喜んでもらえるし、良かったよと声をかけてもらえるのが一番のご褒美です。

○これからの抱負は？

幸い両親とも元気なので、出来る限り今のまま頑張つて活動していきたいです。「これで辞める」と言つたら、僕の町おこしは終わりだと思っんです。一度対馬を離れ、博多に出て良かったことは、伝えなければ評価にならない中で仕事して「言つたが勝ち」だと知つたこと。自分に正直に、誰にでも向かつていく今の僕を持続したいです。

毎回、登場して下さった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は上原町佐護にお住まいの坂口みろさんです。お楽しみに。